

## 【デリック・イノウエ氏のプロフィール】



©Satoru Mitsuta

カナダ生まれの指揮者デリック・イノウエは、印象深く国際的な経歴とオーケストラの指揮経験を豊富に持ち、またオペラの世界においても輝かしい成果を挙げている。

2003年にメトロポリタン・オペラ（MET）でベルリオーズ《ベンヴェヌート・チェツリーニ》の新演出を指揮しデビューを飾って以来、プッチーニ《トスカ》、ドニゼッティ《ドン・パスクアーレ》、ベルリオーズ《ファウストの劫罰》、ワーグナー《ワルキューレ》、《ジークフリート》などを指揮、メット・イン・ザ・パークスでの《椿

姫》公演も指揮している。

2001年から2003年には、ニュールンベルグ・オペラの第1カペルマイスターを務めた。その他、シュトゥットガルト・オペラ、イングリッシュ・ナショナル・オペラ、ニース・オペラ、ニューヨーク・シティ・オペラ、バンクーバー・オペラ、MDR響、フィンランド放送響、ホルン響、セント・ルークス管、トロント響、バンクーバー響等としばしば共演。また、カナダのレジナ交響楽団の音楽監督も務めた。

日本においてはこれまでに、新日本フィル、大阪フィル、京響、兵庫芸術文化センター管、名古屋フィル、仙台フィル、札響、広響、群響等と共演。セイジ・オザワ 松本フェスティバルにも招かれている。

デリック・イノウエは、1985年に名誉あるヴィットリオ・グイ指揮コンクール（フィレンツェ）で優勝、その後3年の夏をかけてシエナ（イタリア）のアカデミア・ムジカーレ・チギアナにおいて国際的に有名なフランコ・フェラーラに師事。1982年には、タングルウッドで、小澤征爾、エーリヒ・ラインスドルフ他のもとでフェローシップ・コンダクターを務める。初期の指揮法は小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明のもとで日本の桐朋学園大学音楽学部において学んだ。